



本事業は、SDGsの「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「13 気候変動に具体的な対策を」に資する取組です。

「あいち COOL CHOICE」
県民運動のロゴマーク

2026年4月16日(木)
愛知県環境局地球温暖化対策課
活動支援第二グループ
担当 手嶋、富田、竹内
内線 5192、5194
ダイヤルイン 052-746-9409

愛知県知多市における低炭素水素モデルタウン実証事業 オープニングセレモニーを開催します

愛知県では、全国一の設置数(33箇所)を誇る水素ステーション(水素ST)を、地域の水素供給拠点として社会実装することを目標に、知多市の水素STから燃料電池自動車(FCV)だけでなく、公共施設や住宅に設置した燃料電池や水素給湯器など、幅広い利用先に低炭素水素を低コストに供給する「低炭素水素モデルタウン実証事業」*を実施しています(2025年8月22日公表済み)。

この度、本実証事業の一部について運用を開始することから、オープニングセレモニー及び施設見学会を開催しますので、お知らせします。

* 環境省委託事業「コスト競争力強化を図る再エネ等由来水素サプライチェーンモデル構築・実証事業」の採択を受け実施。

1 日時

2026年4月23日(木) 午前9時30分から午後0時30分まで

2 場所

知多水素ステーション(知多市新刀池2丁目14番地) 他

3 出席者

愛知県知事 大村 秀章

愛知県議会議長 川嶋 太郎

愛知県議会議員 宮島 謙治

知多市長 伊藤 清一郎

知多市議会議長 渡邊 眞弓

環境省中部地方環境事務所長 松下 雄介

知多高压ガス(株) 代表取締役 花井 康弘

4 オープニングセレモニー概要（9:30～10:00）

- (1) 主催者挨拶（大村知事、伊藤知多市長）
- (2) 来賓祝辞（川嶋県議会議長、松下中部地方環境事務所長）
- (3) テープカット
- (4) 水素充填等デモンストレーション

※ オープニングセレモニー終了後、知事退席

5 施設見学会概要（10:10～12:30）

- 10:10 知多水素ステーション出発
- 10:15～ 燃料電池の説明（旭公園体育館（知多市金沢字石根^{かなざわあざいしね}1））
- 10:50～ 水素ボイラの説明（株式会社一富士製麺所^{いちふじ}（知多市南浜町^{みなみはままち}22-10））
- 11:35～ 水素グリラー・水素コンロ・水素給湯器の説明
（梅の館（知多市佐布里台^{そうりだい}3丁目101））
- 12:30 知多水素ステーションまたは朝倉駅にて解散

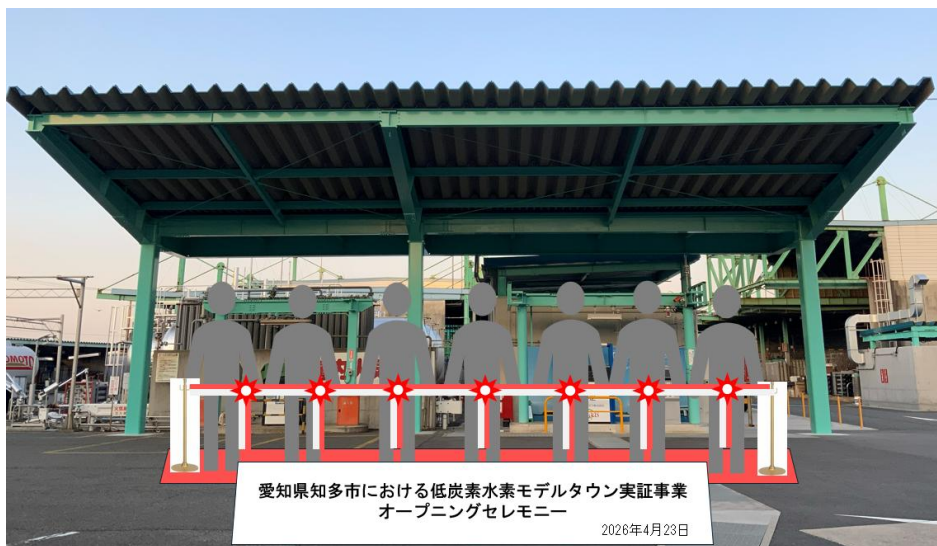
※ 各施設へは中型バス（1台）で移動が可能です。

6 取材について

会場設営の都合があるため、取材を希望する場合は、4月22日(水) 正午までに「7 申込み・問合せ先」へ、別紙「取材連絡票」を御提出ください。

7 申込み・問合せ先

愛知県環境局地球温暖化対策課 活動支援第二グループ 手嶋、富田、竹内
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
Tel : 052-746-9409 Fax : 052-955-2029
メール : ondanka@pref.aichi.lg.jp



オープニングセレモニーのイメージ

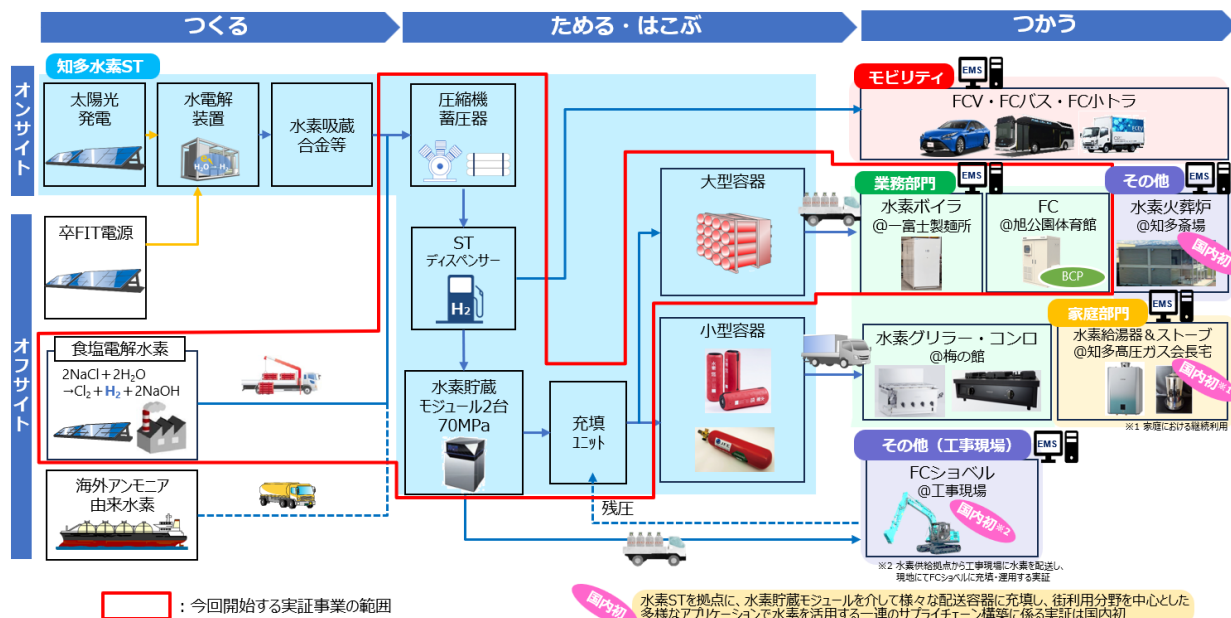
<参考>

1 実証事業の概要

(1) 目的

- 本県が全国一の設置数(33箇所)を誇る水素STを拠点に、地域資源を活用して製造・調達した低炭素水素を、既存LPG配送網や各種新型水素容器を利用し、現状未開拓である街利用分野の需要先へ効率的に供給する。
- 街利用による新たな水素需要創出や、中部圏において検討されている海外からの大規模水素等と連携し、サプライチェーンのスケールアップを図ることで、水素供給の低コスト化と水素STの自立化に貢献する。
- また、愛知県内及び全国の水素STに水平展開可能な事業モデルを構築する。

【事業イメージ】



(2) 実施体制

代表者	愛知県	事業の全体総括
共同 実施者 ^{※1}	知多市	水素利用公共施設の提供、水素利用機器を活用した市民向けサービスの検討
	日本環境技研株式会社	実証結果のとりまとめ・事業化等検討
	明治電機工業株式会社	水素製造・利用機器の設置・エンジニアリング・実証
	知多高压ガス株式会社	水素 ST の運営、水素配送ビジネスの実証、燃料電池トラックの導入
	東亜合成株式会社	低炭素食塩電解水素 ^{※3} の製造・供給
	リンナイ株式会社	水素給湯器・グリラー・コンロの実証
	株式会社大林組	工事現場での燃料電池シヨベル実証及び水素供給方法の開発、EMS ^{※4} に関する検討・実証
	コベルコ建機株式会社	燃料電池シヨベルの実証
	株式会社宮本工業所	水素火葬炉の実証

	株式会社土谷製作所	水素ストーブの実証
	三菱HCキャピタル株式会社	オフサイト再エネ調達検討、機器導入リース検討
協力者 ^{※2}	トヨタ自動車株式会社	水素貯蔵モジュール等に関する実証協力
	ブラザー工業株式会社	燃料電池に関する実証協力
	JFE コンテナ株式会社	水素運搬用軽量容器に関する実証協力
	オートリブ株式会社	燃料電池バスに関する実証協力
	愛知時計電機株式会社	水素メーターに関する実証協力
	株式会社一富士製麺所	水素ボイラの実証協力

※1 主体的に実証等を行う企業等。

※2 実証事業に導入する水素関連機器のメーカー、燃料電池モビリティ・水素関連機器の導入企業。

※3 食塩水を再生可能エネルギー電気を用いて電気分解して苛性ソーダを生産する工程において、同時に生成する水素のこと。

※4 エネルギーマネジメントシステム (Energy Management System) は、今回の実証事業では、1か所の水素 ST から、複数の水素利用機器や燃料電池バス等に水素を供給するため、効率的に水素の運搬・供給を実施できるように各種データを連携するシステムのこと。

(3) 実証内容

項目	検証内容
水素を「つくる」	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンサイト太陽光発電・周辺エリアの卒FIT電源^{※5}を活用した水素 ST における低炭素水素製造や、周辺エリアの低炭素食塩電解水素の供給・調達により、低コストで安定的な低炭素水素の製造・調達手法の検討 ・ 将来的に周辺エリアに整備予定の海外アンモニア由来水素の供給拠点等と連携可能性を調査
水素を「はこぶ・ためる」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存インフラである FCV 向け水素 ST から街利用向けに高圧水素容器に充填・貯蔵し、既存 LPG 配送網等を活用して効率的に配送 ・ 水素 EMS 等を活用して更なる配送効率化や低コスト化の検証
水素を「つかう」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「燃料電池商用車の導入促進に関する重点地域」の取組と連携しモビリティ需要を集積 ・ スケールアップを見据えて業務・家庭・その他街利用における最適な水素ユースケースの検証

※5 「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」(FIT 制度)の買取期間が終了した電源のこと。